



医療法人社団圭泉会 旭川圭泉会病院

< 後期研修プログラム >

目 次

< 理念 >

< 基本方針 >

< 研修目的 >

< 当院の特徴 >

< 研修内容と到達目標 >

< 提供可能な研修プログラム >

< 経験可能な症例 >

< 治療場面別 >

< 治療形態別 >

< 医局紹介 >

< 認定施設 >

< 資格取得 >

< 医局勉強会・研修について >

< 症例及び学会発表について >

旭川圭泉会病院 後期研修プログラム

- < 理 念 > 人間への深い愛と理解、社会の福祉に対する奉仕
- < 基本方針 > 患者さんの人格を尊重し、治療・看護を行います
地域精神医療の向上に尽し、良質な医療・福祉を提供します
精神科救急医療体制の充実を図ります
社会福祉の促進を図ります

- < 研修目的 > 精神医学の幅広い分野で診断および治療の技術を身につけ、精神保健指定医と精神神経学会の専門医の両資格を取り、精神保健福祉法上も精神科臨床も共に充実した精神医療ができるようにすることが目的です。

近年、うつ病、認知症、思春期児童疾患の患者数の増加が顕著で、当院での外来患者数も年々増加の傾向にあります。さらに精神医療への需要が増す一方で、精神科医の人数は、絶対的に不足しています。従って、当病院の研修プログラムを受け、精神保健指定医を修得し、さらに学会の専門医の資格も得て、精神科医として活躍することが可能です。その上で現在増えつつある薬物依存、人格障害等にも十分に対応することが可能と考えます。

< 当院の特徴 >

当病院は昭和 32 年 5 月開設、平成 20 年に 50 周年を迎えた精神科病院です。病床数は 399 床、7 つの病棟がありそれぞれ機能分化されています。その内訳として身体合併治療病棟(64 床、H29.05.01 より特殊疾患病棟に変更) 精神科救急急性期医療入院料病棟が 2 棟(60 床、35 床) 認知症治療病棟、特殊疾患病棟、精神科治療・ケア棟、精神科回復期治療病棟が各 60 床となっております。また北海道では初めて、全国では 22 番目に開設された精神科救急急性期医療入院料病棟 (スーパー救急) を有しており、看護部門では精神科クリニカルパスを全国でもいち早く導入、精神科医療においては常に最新の情報を取り入れ日々の業務に専念しております。この為、道北地区の精神科救急に幅広く対応も可能で急性期精神疾患の症例等も豊富に診療する事ができます。更に精神科デイ・ケアセンター、宿泊型自立訓練施設、グループホーム、ケアホームを運営している事も特徴で退院後のアフターケアも当院関連施設で十分な対応が可能、また社会復帰に向けて職員が一丸となってチーム医療に参加している事も特徴です。これによって精神障がいの急性期から、回復後の社会復帰に至るまで総合的に精神障がいの治療・リハビリテーションが行えており、研修医としてそのいずれの時期もつぶさに関わることができます。マンパワーの面でも作業療法士 22 名、理学療法士 12 名、言語聴覚士 1 名が在籍し道内精神科病院でのリハスタッフ数はトップクラスです、また精神保健福祉士 40 名、公認心理師 13 名、保健師 15 名が社会復帰促進のために精力的に活動しています。更に薬剤師、看護師、管理栄養士、介護福祉士、臨床検査技師など専門分野のスタッフとの連携が取れます。

<研修内容と到達目標>

研修期間は原則3年間です。初期の3ヶ月間は基本研修期間として、主に指導医の初診に陪席し、予診をとっていただき、その後の診断・処方などの基本的な手法を学びます。また初期の1ヶ月間は、当研修で用意されたクルズスのうち、ご自分が希望されるものを受けることができます。

<基本クルズスについて>

1. 統合失調症について（診断から臨床的知見など）
2. 気分障害について（診断・治療・近年の臨床・知見など）
3. 認知症について（疫学・診断・治療・臨床知見など）
4. 睡眠障害について（診断・治療など）
5. ストレス障害について
6. 児童・思春期精神障害について
7. 各種検査法（脳波・頭部画像診断）
8. 精神保健福祉法について（法律の骨格・実務について）
9. 臨床精神薬理（基本的な薬の使い方・薬物動態について）
10. 心理テスト（公認心理士による心理テストからの診断・知見など）

到達目標

● 1年目

臨床：一般的な精神疾患と身体疾患に関連した精神症状の病態を正確に理解し、的確に診断して治療法を選択できるようにする。具体的には前述の専門医や指導医のもとで、10名前後の入院患者を受け持ち、診療にあたる。

臨床研究：臨床を通じて研究テーマを選択し、日本精神神経学会に年一回の研究発表を行う。

● 2年目

臨床：すべての精神疾患と身体疾患に関連した精神症状の病態を正確に理解し、的確に診断して治療法を選択できるようにする。

臨床研究：臨床を通じて研究テーマを選択し、日本精神神経学会、日本老年精神学会に年一回以上の研究発表を行う。

● 3年目

臨床：例外的な症例についても病態を正確に理解し、的確に診断して、治療法を選択できる。また、保健、医療、福祉の幅広い職種と協調してチーム医療を行うことができるようにする。具体的には、困難な症例は別として、指導医の指導を離れて自分で診断・治療にあたる事を目標にする。

臨床研究：2年間で得られた臨床研究の結果を論文発表する。

<提供可能な研修プログラム>

1. 患者及び家族との面談
2. 疾患の概念と病態の理解
3. 診断と治療計画
4. 補助検査法（神経学的検査、心理検査、脳波、CT・MRIなどの画像診断）
5. 薬物・身体療法（修正型電気けいれん療法など、当院では豊富な臨床実績があります）
6. 精神療法
7. 心理社会的療法、精神科リハビリテーション及び地域精神療法）
8. 精神科救急（豊富な臨床実績があります）
9. 法と精神医学（鑑定、心神喪失者医療観察法など当院では豊富な臨床実績があります）

<経験可能な症例>

1. 統合失調症
2. 気分障害
3. 児童・思春期精神障害（摂食障害含む）
4. アルコール、精神作用物質による精神障害
5. 症状性または器質性精神障害、認知症
6. 人格障害、不安障害、身体化障害、ストレス障害

<治療場面別>

1. 救急・当直例
2. 行動制限例
3. 地域医療別
4. 合併症・コンサルテーション例
5. 司法精神医学例

<治療形態別>

1. 任意入院例
2. 非自発入院例（医療保護・応急入院）
3. 措置入院例
4. 外来治療
5. リハビリテーション

< 医局紹介 >

【精神科医局】

理事長・院長 直江 寿一郎（ 医学博士 ）

[精神保健指定医](#)

日本精神神経学会精神科専門医・指導医

日本老年精神医学会専門医・指導医

日本認知症学会専門医・指導医

精神保健判定医

初期臨床研修指導医

日本医師会認定産業医

日本精神科救急学会認定医制度暫定指導医

副 院 長 猪俣 光孝

[精神保健指定医](#)

日本精神神経学会精神科専門医・指導医

精神保健判定医

初期臨床研修指導医

日本医師会認定産業医

北海道上川保健所嘱託医師

副 院 長 直江 綾子（ 医学博士 ）

[精神保健指定医](#)

日本精神神経学会精神科専門医・指導医

日本医師会認定産業医

初期臨床研修指導医

診療部長

田端 一基（ 医学博士 ）

[精神保健指定医](#)

日本精神神経学会精神科専門医・指導医

日本認知症学会専門医・指導医

日本老年精神医学会専門医・指導医

上級専門心理士

認知症サポート医

医療観察法 精神保健判定医

初期臨床研修指導医

日本医師会認定産業医

旭川医科大学臨床指導教授

日本精神救急学会認定医制度暫定指導医

診療部長

中山 貴裕

[精神保健指定医](#)

日本神経学会 神経内科専門医

日本内科学会 総合内科専門医

初期臨床研修指導医

診療部長

森川 文淑

[精神保健指定医](#)

日本老年精神医学会専門医・指導医

日本認知症学会専門医・指導医

日本精神神経学会精神科専門医・指導医

日本医師会認定産業医

初期臨床研修指導医

日本精神科救急学会認定医制度暫定指導医

精神保健判定医

認知症サポート医

診療部長

佐々木 彰

[精神保健指定医](#)

日本小児科学会 小児科専門医・指導医

日本小児精神神経学会認定医

名寄市立大学 非常勤講師

旭川児童相談所嘱託医(非常勤)

診療副部長	吉田 達之 精神保健指定医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医 医療観察法 精神保健判定医 認知症サポート医 認知症診療医
医 長	村山 友規（ 医学博士 ） 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医・指導医 日本老年精神医学会専門医・指導医 公認心理師 日本総合病院精神医学会専門医・指導医
医 長	松井 宏樹 精神保健指定医
医 長	富山 貴代 精神保健指定医
医 長	小祝 信広 精神保健指定医
医 長	福家 章太 精神保健指定医
医 長	山口 真由子 精神保健指定医
医 師	長沼 利恵
医 師	米内口 正一
医 師	芳賀 香織
医 師	星野 豊
医 師	佐野 弘幸
医 師	片山 祐 認知症サポート医
医 師	廣川 竜行
医 師	菅野 公貴（専攻医・後期研修医）
医 師	大久保 陽介（専攻医・後期研修医）
医 師	佐藤 滉太（専攻医・後期研修医）

精神科医局の 23 名うち

精神保健指定医 14 名

日本精神神経学会精神科専門医・指導医 6 名

日本老年精神医学会専門医・指導医 4 名

初期臨床研修指導医 6 名が在籍しており指導体制も充実しております

公認心理師 13 名在籍

精神科一般臨床の他に、各 Dr の専門は認知症・児童思春期・精神科救急・
アルコール・司法精神・臨床精神薬理のグループに区別されます。

【内科医局】

内科担当副院長 渡邊 泰男（ 医学博士 ）

日本医師会認定産業医

医 長 櫻井 忍

日本消化器学会 消化器専門医

日本内科学会 認定医

日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医

日本医師会認定産業医

【ペインクリニック内科】

医 長 櫻井 行一

麻酔科標榜医（厚生労働省所管）

日本麻酔科学会麻酔科認定医

臨床研修指導医

【介護老人保健施設ことぶき】

施 設 長 河野 賢司

精神保健指定医

日本精神神経学会精神科専門医・指導医

精神保健判定医

初期臨床研修指導医

旭川医科大学臨床指導教授

< 認定施設 >

一般社団法人日本専門医機構認定 精神科領域 専門医研修プログラム基幹施設

社団法人 日本精神神経学会専門研修プログラム基幹施設

社団法人 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設

日本認知症学会専門医教育施設

日本老年精神学会認定施設

北海道依存症専門医療機関（薬物依存症、アルコール健康障害 ギャンブル等依存症）

卒後臨床研修における協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設

- ・ 国立大学法人 旭川医科大学
- ・ 独立行政法人国立病院機構 旭川医療センター
- ・ J A 北海道厚生連 旭川厚生病院
- ・ 旭川赤十字病院

< 資格取得 >

精神保健指定医

医療保護入院や措置入院などの精神医療の中核を担う業務をする際に必須の資格で精神科医である証でもあります。当院では症例数も多く、精神保健指定医取得に向けてのバックアップ体制は確立しており、研修期間での取得が可能です。過去、当院で後期研修を終えた Dr は全て取得しております。

日本精神神経学会認定専門医

（別途精神科専門医研修プログラムを参照）

認知症専門医

当院は日本認知症学会専門医教育施設に認定されており、専門的な臨床経験や指導を受ける事が可能です。令和5年4月1日現在、理事長含め3名の Dr が認知症専門医を取得し物忘れ外来に対応しております。

< 医局勉強会・研修について >

- ・ **勉強会**（AM8：15-AM8：45 定期開催）内容はその都度変更になることもあります。

火曜日 精神薬理

水曜日 精神病理

- ・ **症例検討会**

毎週水曜日（定期開催）

各週において担当医師がそれぞれの疾患症例を持ち寄りディスカッションや新患紹介を行う、また学会予行や各レポート発表も実施しています。

・薬剤検討会

水曜日もしくは木曜日（不定期開催）

製薬会社との連携で新薬、改良薬品などについての説明会を開催

また他社との連携で外部講義、研修会なども開催致します

・臨床精神医学懇話会＜日本医師会生涯教育講座＞

年3～4回（不定期開催）

当病院が主体となり外部医師及び講師を招いての講演会となります。当院の医師、病院職員のみならず、旭川市内の各病院、医師にも呼びかけし院外で行われる大規模な講演会となります、講演会終了後は演者と当院医師との間で情報交換会を設け各々のスキルアップを目指しています。平成20年度以降の開催内容については以下の通りです

例1

平成20年6月 旭川グランドホテルにて開催

特別講演 精神救急医療と急性期治療の現在

静岡県立こころの医療センター 院長 平田 豊明 先生

例2

平成20年10月 旭川ロワジールホテルにて開催

一般講演 強固な服薬拒否例に対する olanzapine 口腔内崩壊錠
の使用経験

医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医師 森川 文淑

特別講演 うつ病の回復過程論

帝京大学 精神神経科学教室 准教授 内海 健 先生

例3

平成21年5月 旭川グランドホテルにて開催

一般講演 当院におけるレビー小体型認知症の治療戦略

医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医師 森川 文淑

一般講演 レビー小体型認知症における臨床経験から
～臨床経過および視覚認知障害について～

医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 田端 一基

特別講演 レビー小体型認知症の臨床をめぐって

横浜ほうゆう病院 病院長 小阪 憲司 先生

例 4

平成 21 年 9 月 旭川ロワジールホテルにて開催

- 一般講演 発達障害の新患とその特徴
～ 当院外来の過去 1 年間の調査より～
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 鈴木 太郎
- 特別講演 広汎性発達障害の診断と医療～ 児童と成人～
京都大学大学院医学研究科・医学部人間健康科学科・
作業療法学専攻 教授 十一 元三 先生

例 5

平成 22 年 3 月 ロワジールホテル旭川にて開催

- 一般講演 アリピプラゾールの臨床経験
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 田端 一基
- 特別講演 精神科救急の治療技術論
ガイドライン改定の為の多施設共同研究の成果から
順天堂大学医学部附属練馬病院
先任准教授 八田 耕太郎 先生

例 6

平成 22 年 5 月 旭川グランドホテルにて開催

- 特別講演 抗うつ薬をめぐる最近の話題
国際医療福祉大学 教授 上島 国利 先生

例 7

平成 22 年 5 月 旭川グランドホテルにて開催

- 一般講演 症例から見た認知症の診断・治療
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 アルツハイマー病 ～プライマリーケアから最新の
診断・治療・予防まで～
順天堂大学医学部附属順天堂医院
精神医学教室 教授 新井 平伊 先生

例 8

平成 22 年 6 月 ロワジールホテル旭川にて開催

- 一般講演 慢性期統合失調症におけるアリピプラゾールの使用
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 統合失調症の心理社会的療法
帝京大学医学部 精神神経科
教授 池淵 恵美 先生

平成 22 年 6 月 ロワジールホテル旭川にて開催

- 特別講演 G S A D 概念の成立～今なお難治性うつ病に隠れて～
大阪市立大学病院 医学研究科 神経精神医学
準教授 永田 利彦 先生

例 9

平成 22 年 7 月 旭川グランドホテルにて開催

- 一般講演 オランザピン ザイリスが有効であった高齢の統合失調
症の 2 症例
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 統合失調症治療におけるアドヒアランスの意義
北海道大学大学院 医学研究科 神経病態学講座
精神医学分野 教授 小山 司 先生

例 10

平成 22 年 7 月 ロワジールホテル旭川にて開催

- 特別講演 レジリエンスの視点からみた精神病の早期発見・治療
おおぞらクリニック 院長 八木 剛平 先生

例 11

平成 22 年 11 月 ロワジールホテル旭川にて開催

- 特別講演 時代の要請に応えるうつ病臨床の key Words を検証する
東京女子医科大学 神経精神科
教授 坂本 薫 先生

例 12

平成 23 年 6 月 30 日

- 特別講演 精神症状の捉え方～精神科診断の問題点～
医療法人社団 慶神会武田病院
元東京大学教授 精神科 原田 憲一 先生

例 1 3

平成 2 3 年 7 月 8 日

特別講演 神経認知障害(DSM-V draft)と精神症状
財団法人 仁明会精神衛生研究所
所長 三好 功峰 先生

例 1 4

平成 2 3 年 1 1 月 1 8 日

一般講演 当院におけるガラントミンの使用経験～BPSD が著明に改善したアルツハイマー病の 2 症例～
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
特別講演 最近の認知症事情～新規認知症薬への期待～
大阪大学大学院 医学系研究科 精神医学分野
准教授 工藤 喬 先生

例 1 5

平成 2 4 年 6 月 1 日

特別講演 非定型うつ病をめぐって
(公財)神経研究所付属晴和病院 理事長
帝京大学 名誉教授 広瀬 徹也 先生

例 1 6

平成 2 4 年 8 月 3 日

一般講演 当院における FTD の治療経験
医療法人社団旭川圭泉会病院
精神科診療副部長 田端 一基
薬物療法、m-ECT が奏功した 2 症例
医療法人社団旭川圭泉会病院
精神科医長 森川 文淑 先生
特別講演 認知症の診断における症候学的重要性
熊本大学大学院 生命科学研究部 神経精神医学分野
教授 池田 学 先生

例 1 7

平成 2 4 年 1 1 月 1 7 日

- 一般講演 当院におけるリバスタッチパッチの使用経験
～ 認知機能、BPSD が著明に改善した 2 症例～
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 変性性認知症の識別診断と治療 up-to-date
順天堂大学医学部 精神医学教授
順天堂東京江東高齢者医療センター認知症臨床研究部部長
井関 栄三 先生

例 1 8

平成 2 5 年 7 月 2 6 日

- 特別講演 私のうつ病治療経験から
特定医療法人 共和会 桜クリニック
名誉院長 笠原 嘉 先生

例 1 9

平成 2 5 年 8 月 9 日

- 一般講演 外来うつ病診療における治療成績と問題点について
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 渡邊 友弥
- 特別講演 うつ病治療のパラダイスシフト
杏林大学医学部 精神神経科学教室
教授 古賀 良彦 先生

例 2 0

平成 2 5 年 9 月 6 日

- 一般講演 当院における精神科救急医療の現状と課題
アリビプラゾールの分析を中止に～精神科救急入院
データベースから～
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 精神科入院治療の最適化を目指して
～ 行動制限最小化 最近の話題から～
公益財団法人 復康会 沼津中央病院
院長 杉山 直也 先生

例 2 1

平成 2 5 年 9 月 2 7 日

- 一般講演 当院における精神科救急医療の現状と課題
～ 精神科救急入院データベースから高齢者の
解析を中心に～
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 重度・慢性患者への治療と支援
地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立病院
院長 藤井 康男 先生

例 2 2

平成 2 6 年 8 月 1 日

- 特別講演 日本精神救急学会の成立から現在まで
～ 精神科救急の必要性、あり方をめぐって～
社会医療法人北斗会 さわ病院 院長 澤 温 先生

例 2 3

平成 2 7 年 5 月 2 9 日

- 一般講演 当院におけるリバスタッチの使用経験について
～ 物忘れ外来のデータを中心に～
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 神戸大学病院認知症疾患医療センターの紹介、専門医
の考える医療連携と認知症介護について
神戸大学医学部附属病院 精神科神経
医師 山本 泰司 先生

例 2 4

平成 2 7 年 7 月 3 1 日

- 特別講演 社会性という観点から精神科の病気について考える
京都大学大学院 医学研究科脳病態生理学講座
教授 村井 俊哉 先生

例 2 5

平成 2 7 年 8 月 2 1 日

- 一般講演 脳卒中後うつ病(post-stroke depression)治療における
エスシタロプラムの有用性について
医療法人社団旭川圭泉会病院 精神科医長 森川 文淑
- 特別講演 こころを診る技術～精神疾患の薬物治療と同時に
考えるべきこと～
北里大学医学部精神科学
主任教授 宮岡 等 先生

例 2 6

平成 2 7 年 9 月 1 8 日

- 特別講演 発達障害における成人期 ADHD：診断と治療をめぐって
東海大学医学部 専門診療学系 精神科学
教授 松本 英夫 先生

例 2 7

平成 2 8 年 8 月 5 日

- 一般講演 アリピプラゾールによる統合失調症の包括的
治療戦略について
医療法人社団旭川圭泉会病院 医師 栗野雄大
- 特別講演 最近の医学教育～精神医学との融合の観点～
京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・
研修センター特定病院 助教 藤原 広臨 先生

例 2 8

平成 2 8 年 1 0 月 2 8 日

- 特別講演 BPSD の対応とケア
横浜市立大学 保健管理センター（精神科）
教授 小田原 俊成 先生

例 2 9

平成 2 8 年 1 1 月 2 5 日

- 一般講演 ブロナンセリン単剤で奏功した急性期統合失調症患者の治療
医療法人社団旭川圭泉会病院 医師 岩本 智秀
- 特別講演 認知機能障害を意識した統合失調症臨床
北海道大学病院 医学研究科精神医学分野
助教 橋本 直樹 先生
- < 以上 >